

ポンプ&村上龍

Murakami Ryu

幻冬舎

〈著者紹介〉

村上 龍 1952年長崎県佐世保市生まれ。武蔵野美術大学中退。大学在学中76年、「限りなく透明に近いブルー」で群像新人賞、芥川賞を受賞。主な著書『コインロッカー・ベイビーズ』『トパーズ』『イビサ』『ピアッシング』『五分後の世界』『ヒュウガ・ウィルス』など。

E-mailアドレス

PXY06416@niftyserve.or.jp

ryu@mxn.meshnet.or.jp



ラブ&ポップ

1996年11月18日 第1刷発行

1996年12月1日 第2刷発行

著 者 村上 龍

発行者 見城 徹

発行所 株式会社 幻冬舎

〒160 東京都新宿区四谷1-22-6

電話:03(5379)8011(編集)

03(5379)8086(営業)

振替:00120-8-767643

印刷・製本所:中央精版印刷株式会社

検印廃止

万一、落丁乱丁のある場合は送料当社負担でお取替致します。小社宛にお送り下さい。本書の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。定価はカバーに表示しております。

©RYU MURAKAMI, GENTOSHA 1996

Printed in Japan

ISBN4-87728-135-5 C0093

ラブ&ポップ

裝幀
菊地信義

一九九六年、八月六日の朝に、吉井裕美が見た夢。

会ったことのないデブの男がとても高い山の中腹の小道で、看守に、キノコ採りをさせられている。何か修業のようでもあるし、罰のようでもある。キノコは見たことのない形でシューマイに似ている。非常に乾燥していて表面に粉を吹いている。二ヶ所でキノコを採取した後、デブの男は岩山に貼り付いているサソリを見つける。小型の、赤と緑のサソリ。こんなことやってられませんよ、刺されたら死にますよ、デブの男は看守にそう訴えるが、紺色の制服の看守は聞こえないふりをして、知らん顔している。

吉井裕美は午前九時半に目覚ましの音で起きた。父親が去年のクリスマスにくれた喋る目覚まし時計。ねえヒロミ起きて、残念ですけど朝ですよ、ねえヒロミ起きて、残念ですけど朝ですよ。裕美はその目覚まし時計を、ダサイ、と思っていた。だが父親が買ってくれたものなの

で気に入ったふりをしている。

裕美はパジャマのままバスルームに行った。あら、起きたの？ 顔を洗っていると母親にそう言われた。

「早いね」

母親は昨夜のやりとりを忘れているらしい。来週みんなで海に行くから明日チーちゃんやナオなんかと水着を買いに行くの、きのうの夜裕美がそう言うとおとうさんには内緒よ、と母親は二万円くれた。

「昼から渋谷に行くから」

「あ、水着買うんだ」

「うん」

「お金、足りる？ 御飯とかも食べるんじゃないの？」

「足りるからいい」

「念のため、あげとこうか？ 余ったら後で返してもらおうから」

「本当にいい」

「フレンチトーストつくったから、オーブンで少し焼いて食べてね、電子レンジじゃなくてオーブンのほうがおいしいからね」

母親はグリーンのスーツを着て仕事に出かけた。母親は新しく世田谷区にできた写真とデザインの美術館の事務職をしている。

父親は普通の商社員だが、裕美が生まれる二年前に遺産を受けて、井の頭線の沿線に小さな建売り住宅を買った。一階にリビングとキッチンと主寝室、二階に子供部屋と客間が一つ、野田知佐や高森千恵子の家に比べると狭いが、横井奈緒のマンションよりは少しだけ広い。

朝食はもう少し後にするにすることにして裕美は二階に上がり、自分の部屋に入った。弟の部屋からはコンピューターゲームの音もギターも聞こえてこない。まだ寝ているのだ。二人は年子で、それぞれ別の私立高へ通っているが、今は夏休みだ。裕美は弟の立彦とあまり話さないが、仲が悪いというわけではない。

机の前に坐って、裕美は自分で「バイト」と呼んでいることを始めた。雑誌から気に入った洋服や小物や化粧品の写真の切り抜き、コピーを書き写して自分なりのカタログをつくるのだ。雑誌はいろいろだが『JJ』を使うことが多い。

海とドライブはデートの基本。花柄ふんわりスカートで行きたい。(もう少しこのまま女の子でいたい、でも大人の女にも見られたい、そんな気持ちに揺れ動く年頃。意中の彼にデートに誘われたのならその思いはもっと複雑。)いつものカジュアルな雰囲気はそのままに一人前の女としてエスコートされる服を考えてみました。憧れのフレンチ・レストランでは光るワンピースでお姫様気分。ちょっと気どってオシャレするのは、今日、私はお姫様って気分するとき。そ

ういうときはラーメン屋に行くのにも、すばらしいワンピース着てたりする。レディみたいに
エスコートされる日は、夢見るような花柄のギャザースカートをはく。車から降り立つときも、
ふんわり広がって女のコ気分でいっぱい。着なれた白黒なら大丈夫。ボディスーツ参考商品、
スカート¥25000（2点ともシンシア・ローリー、シンシア・ローリー・シヨップ） バッ
グ¥26000（マリー・ブーベロ、ヴォヤージュ・ド・デビュ） 靴¥13800（Fin）
グローブ¥6900（キャセリーニ） イヤリング¥12800（SÖ インターナシヨナ
ル）。野田知佐と高森千恵子と横井奈緒は裕美の仲のいい友達だ。野田知佐は背が高くて気が
強くて、オヤジの扱いがうまい。高森千恵子は最後まで付き合う援助交際をしたことがある。
高森千恵子はそのことを裕美に何度か少しだけ喋った。他の二人には話していない感じがする。
だから、野田知佐や横井奈緒と一緒にいる時裕美はそういう話をしないようにしている。横井
奈緒が、最後まで付き合う援助交際をしているかどうかはわからない。横井奈緒は四人の中で
一番かわいい、と裕美は思っているが、背も一番低くて百五十三しかなく、彼女はそのことを
気にしている。横井奈緒は、裕美のほうがいいよ、とよく言う。野田知佐は自分で男顔だ
と気にしていて、高森千恵子は自分の目がきついいから嫌いと言いが、裕美は二人ともきれ
いだと思う。高森千恵子はスタイルがよくてとても大人っぽいし、野田知佐の顔は端正だ。裕
美は他の三人とは違って、まだ数えるくらいしか援助交際をしていない。それも、一人ではや
ったことがないし、もちろん、食事だけだ。なぜ自分が積極的に援助交際をしないのか、裕美

にはよくわからない。中三の頃、一時期テレクラにはまったことがある。両親がいない時には必ずテレクラに電話していた。その頃の自分はあまり好きではない。学校が公立の共学で、あまり友達がいなかった。十六歳の女の子でテレクラの経験のない子はいない。

積極的に援助交際をしないからという理由で裕美がグループから浮くことはない。援助交際そのものもグループで話題になることはあまりないし、そもそも流行りではない。それにブラダやグッチやシャネルを本気で欲しがる者も今はほとんどいない。野田知佐はよく母親のお古のヴィトンを借りてくる。上手に使い込んだ定番のヴィトンは最高にかっこいいと裕美は思う。高森千恵子はお姉さんのフェンディをよく借りてくるし、裕美は有名ではないブランド品でセンスがよいと思うものを買う。ベルデ・モンテのサテン地のポーチとかジャイロのモードスタイルのバッグなどだ。横井奈緒は好みが少し変わっている。モスキーノのジーンズを澄ました顔ではいてきたりする。ピンストライプのジャケットの着方も横井奈緒が一番上手だと裕美は思っている。

裕美の「バイト」は他の三人に評判がいい。裕美は他の三人に比べて自分は個性的ではないと思う。オールナイトでクラブに行つて騒ぐのに少し飽きてきた頃から、野田知佐はダンスを習うようになったし、高森千恵子はボイストレーニングを始めた。すぐに飽きて止めると思うよ、と二人共そんなことを言っていたが半年経った今でも続けていて、面白くなってきた、と言うことが変わってきた。高三になってオールでクラブニングするなんてバカだよね、みたいな

ことを最初に言った横井奈緒はつい最近マックのコンピューターを買った。まだ使い方がよくわからないらしいが、インターネットでロンドンやロシアのタトゥーアンドボディピアスクラブにアクセスするのだと言っていた。横井奈緒はおへそにピアスを入れている。ピアスのことは両親も知っているらしい。両親とも雑誌社に勤めていて家の雰囲気がとても自由なのだそうだ。

四人の中で、裕美だけが彼氏を持っているが、そのことは援助交際に積極的ではないことと関係がない。裕美の彼氏は高見浩一という名前で、去年渋谷のCAVEで知り合った。高三になって高見浩一は忙しくなった。国立の理系を受験するらしい。二、三週間に一度のペースで会っていたが、最近はあまり会わない。昔はそんなことはなかったのに、会うと必ず「やらせろよ」と言うようになったし、止めてと頼んだのに、二度もキスマークをつけられた。身長もあるし、オートバイを持っているし、話も面白いが、裕美は三人の女友達といるほうが楽しい。もうすぐ高見浩一と別れるだろうな、という予感があるが、不思議にあまり感情の揺れがない。中三の時、初めて付き合った彼氏と別れる時は泣いたが、高見浩一との場合はそんなことはないと思う。別れが今年のクリスマス前だったら、イブと一緒に過ごす人がいなくなってしまうかもしれないが、今は夏休みなのでそんなことは考えない。高見浩一は連れて歩いてもらわずかしくないし、気のきいたジョークも得意だった。先週トロピカルなカフェでチチというカクテルを飲んでいる時に、裕美は高見浩一から聞いた話を三人の女友達にして、うけた。家族旅行でハワイに行っておとうさんに偶然胸を見られてしまった二十代後半のOLの話だ。夕方

ね、シャワーを浴びてホテルの部屋のベランダで夕陽があんまりきれいだったからバスタオルのまま外の景色を見てたんだって、で、その時やっぱりチチを飲んでたんだって、それでバスタオルがぼつさり落ちちゃって気付かなかったんだけどすぐ横にその人のおとうさんがいたらしいの、おとうさんのほうが慌てちゃって部屋の中に入ったんだけど、わかる？ チチを飲んでる時にチチにチチを見られたんだよ。高森千恵子だけがあまり笑わなかった。高森千恵子はゼロ歳の時に両親が離婚して母親と暮らしている。

裕美は「バイト」を続ける。夜景の高層階のバーラウンジ。いきなり大人のふりをして無理だから、モードなオプティカルプリントのワンピースを可愛く着る。ピンクとグリーンの配色が今年らしい。ワンピース¥9800（チャック・チャケット・チキット） バッグ¥13000（ジル・スチュアート アクア・ガール） バッグにつけたブローチ各¥3500（2点ともチープ&シック by モスキーノ ヴァンドームヤマダ） プレスレット¥3000 靴¥26000（2点とも VIVA YOU） ホテルのメインダイニングでのお食事では、思いきり背のびしてみる。ゴテゴテ着飾るよりも、シンプルな光る素材のワンピースが大人の女っぽい。ちよつと緊張しながら、初めてのデートを楽しみたい。ワンピース¥85000（プレイステージ・ジュンコ・シマダ ルシアンプランニング） バッグ¥13500（ビギ アディロン） 靴¥12800（Fin） イヤリング¥15400 ネットクレス¥24000（2点とも S O インターナショナル） リング¥1200（グレナディン）

十一時近くになって裕美は母親の言う通りつくりおきのフレンチトーストを電気オーブンで温めて食べた。裕美の家では大小二つの遠赤外線オーブンをよく使う。フレンチトーストは小さいほうに入れた。充分に温めてからね、と母親は言った。キッチンまわりのことを話す時の母親は好きだ。お肉を焼く時は早く塩コショウを振っておいたほうがおいしい、生野菜は食べる前に氷水につけること、油汚れのお皿はなるべく洗剤を使わないで熱いお湯で洗ったほうがいい、そういう単純なことを母親に教わるのは楽しかった。高森千恵子はとても母親と仲がいい。母親を大事にしている。年が近いせいもあると思うと本人が言っていた。高森千恵子の母親はまだ三十九歳だ。裕美の母親は四十四歳で、他の二人もほとんど同じだ。高森千恵子の母親は保健関係のかなり偉い公務員で海外出張にも行くそうだし、本も出している。でも公務員だから給料は安いのもわたしによくお小遣いくれるからいつも悪いなって思ってるんだね。二ヶ月くらい前のことだが高森千恵子は学校傍のデニーズで二人きりになった時、そういう話をした。

「ヒロミって、一人で援助交際したことないんだよね」

「ないよ」

「本当に、ないの？」

「ないよ」

「わたし、何度か、最後までいったことがあるんだ」

というやりとりの後に、高森千恵子は母親の話を始めたのだった。

「悪いなって思っっちゃうんだよね、でもバッグとか洋服とか高いし、そういうお金はもらえないよ」

その後、高森千恵子はまだ何か言いたそうな顔だったが、その話題は終わり、お互いの昔の彼氏の話になって、最後は裕美の手の指の話が出た。高森千恵子は、紅茶を掻きまぜるスプーンを持つ裕美の手の指がきれいだとほめてくれた。手のモデルみたいな指だよね、わたしってほら少し太いじゃない、爪の形も変だし、ヒロミ、ネイルアート行ったら？ 絶対かわいいと思うよ。

裕美はテレビのニュースを見ながらフレンチトーストを食べた。0・157が原因で生鮮食品の生産者への影響が懸念されていますが、高原野菜の産地、長野からの報告をお伝えします。八ヶ岳山麓の長野県川上村は夏のこの時期、全国のレタスの六割を生産するレタスの村です。そのレタスの値下がりが続いています。先月中頃まで十キロケースで千七百円前後だった競り値がとうとう千円を割り込み肥料代さ^{まかな}え賄えないという嘆きが聞こえます。加熱調理をしない生野菜を控える人が増えているのに加え、過去にアメリカでレタスからの検出例もあることから、不安を感じた消費者の買い控えが続いているのです。これまでに長野県が行ったサンプル検査では、レタス等長野県の野菜から0・157は検出されていません。長野県の農協組織は

昨日緊急の対策会議を開き、今後も独自に検査を続けながら消費者に安全性をアピールしていくことを確認しました。しかしこれが消費回復の決め手になるかどうかはわかりません。川上村ではこれ以上の値下がりをなんとかい止めようと、収穫量の一部を廃棄処分にする復価調整を始めています。O・157の余波がいつまで続くのかレタス農家の人達の不安な日々が続いています。なお、野菜産地からでありましたが、お伝えしておりますように厚生省はO・157等の腸管出血性大腸菌感染症を今日付けで伝染病予防法の指定伝染病に加えます。ニュースを見ながら、これからO・157がどうなるかわからないけど、半年後か一年後か二年後には事件は忘れられてるんだろうな、と裕美は思った。レタスの商売がダメになった人達やO・157で死んだ人の家族以外はみんな忘れるだろうな、と思った。

外は暑そうだった。スリッポンピースを着ていきたかったが、大きめのリングピースもコインヘッドのネックレスも持っていないので、裕美は、ハイネックの毛ノトーンのワンピースを選んだ。109の地下のBELLSで去年の夏の終わりに四千九百円で買ったものだ。裕美はシャネルヘッドのチェーンネックレスを一つだけ持っているが、それは先々週も先週もつけた。来週海に行く時にも必要になるので、きょうはつけたくない。援助交際が少なくないとしてもアクセサリーや小物に差がつくが、そんなことを考えてもしょうがない。野田知佐は間違はなくミニのワンピースとヒールサンダル、高森千恵子はピンストライプの黒っぽいボトムパン

ツとカットソーかチビT、横井奈緒は見当がつかないけど、ハイネックのワンピースでグループの調和が崩れることはないと言った。裕美は思った。待ち合わせは午後一時で、場所は渋谷駅前の大きな交差点の向かいにあるマクトナルドの前。着換えの最中、ラジカセでJ・WAVEを聞いた。女のボーカル。杏里だと思うがはっきりとはわからない。逆巻く風にキャップが飛ばされてもスピード緩めずカブリオ走らせるの、海へ、壊れかけた恋を止めるのは見栄も意地も捨てる勇気だわ、空と海が青く溶けた砂浜でもう一度照れたようにキスをしてもいいじゃない、信じて、キャン・ウイ・ゴー・バック・トゥ・サマーデイズ・ウエン・ウイ・ラブド、カーブを切れば渚はもう目の前、あふれる光は出会った夏とまるで同じ、時の中で恋は色褪せて違ふ夢をいつも探すけど、雲と風が流れてゆく青空と比べたら涙なんて小さすぎて見えないわ。

ラメ素材のパステル系の水着を買おうと裕美は思っている。

渋谷に向かう電車は意外に混んでいた。途中から裕美は坐ったが、目の前に週刊誌を拡げたオヤジがいて電車の揺れに合わせて被^{おお}いかぶさるように視界を塞^{ふさ}いだ。からだに触れてくることはないが、無神経だ、と裕美は思った。去年の春、目標の私立女子高に合格して、両親がアメリカ西海岸の旅行をプレゼントしてくれた。裕美は安いチケットを自分で探して手に入れた。父親の会社の支社に勤める日系女性の家にステイした。それまで海外はサイパンとグアムしか知らなかったの、ロスアンゼルスやサンフランシスコは新鮮だった。日本でテレビや雑誌を見ていてもわからないことを裕美はいくつか知ったが、その一つが人間と人間の距離感だった。裕美が出会った人達は、断わりなしに、接触したり、間違えば接触しそうな距離に近づいたり決してしなかった。日本人はそのことに鈍感らしい。週刊誌の表紙が裕美のすぐ目の前にある。スクープ入手・大ウソだった・パチンコCR機を巡る警察庁とメーカー 重大会議。レズ・自殺・実名で暴露・宝塚・下半身とカネ 醜聞。ビジネスマンも見習うべし有森裕子は燃え尽き